

## 〈がんの痛み〉

がんの痛みは治療できる症状です。痛みは我慢せずにきちんと伝えて治療を受けましょう。

がんという疾患が恐れられている理由の一つに、「避けられない強い痛みが出現しながら衰弱する」というイメージがあります。しかし、がんの

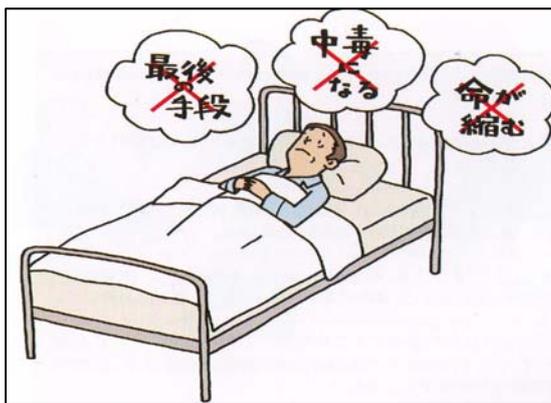
痛みだから我慢しなければならない、というのは誤解です。モルヒネを初めとした医療用麻薬などを適切に投与することで、ほとんどのがん患者さんが痛みから解放されます。



## 〈麻薬ってこわくないの?〉

がんの痛みの治療には「医療用麻薬」を使います。正しい知識を持っていれば、安心して治療が受けられます。

### ① 医療用麻薬とは医療現場で使用する麻薬のことです。



麻薬について「中毒になる」「命が縮む」「最後の手段」といった誤ったイメージを持たれている方がいらっしゃるようです。

しかし、世界保健機構(WHO)の全世界における二十年の経験から、がんの痛みの治療にはモルヒネなどの医療用麻薬が有効であり、誤解されてい

るような副作用は認められないことが明らかになっています。

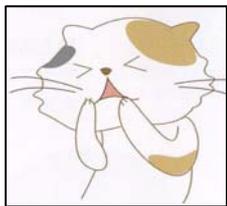
## ② 医療用麻薬の服用方法

医師は患者様それぞれの痛みの強さと性質に応じて、薬を選びます。

医療用麻薬は時間を決めて正しく服用します。一定時間間隔で服用することで、体内の薬物濃度の変化を少なくして、確実に痛みがでないようにするためです。

口から飲める場合は、飲み薬を使って痛みの治療をおこないます。病状により口からお薬が飲めない場合は坐薬、注射薬、貼り薬を使用します。

## ③ 医療用麻薬の副作用



医療用麻薬の副作用として便秘、吐き気、嘔吐をもよおすことがあります。この副作用対策として、医療用麻薬とともにお通じを良くする薬と吐き気止めが処方されます。

また、お薬の使い始めやお薬の量が増えてときに眠気が現れることがあります。次第に眠気がなくなりますが、続く場合は主治医に知らせてください。

### 〈痛みの治療で大切なこと〉

いつ、どこが、どのように痛いのか、患者様自身にしかわかりません。患者様が医師や看護師に痛みをうまく伝え、治療に参加していくことが大切です。そうすることで、患者様に合わせた痛みの治療をおこなうことができます。

また、使用方法、副作用など麻薬のことについては主に薬剤師が説明させていただきます。医療用麻薬についてわからないこと、不安なことがありましたら薬剤師に気軽に相談してください。

がんの痛みで苦しまないための4カ条

- ① 痛みを我慢しない
- ② 痛みを医療者に伝える
- ③ 痛みの治療に参加する
- ④ 医療用麻薬を恐れない

